

教頭の小部屋

2021.3.17
3年生卒業号

梅蕾

「高潔」「気品」という花言葉の通り、冷たい空気の中、早々に咲く梅の姿は、凜としている。日本人は昔から、桜と同じように梅を愛してきた。万葉集で梅を詠んだ歌は百を超える。また梅は、花や香りだけではなく、蕾も愛でられる。

赤・白・淡いピンクの花をつけ、今、春の到来を

告げている梅の木は、2月初旬、葉もなく花もなく、寒風に枝を揺らしていた。しかし、近寄ってみるとその枝には肩を寄せ合うように多くの蕾が…。寒さの中、蕾を膨らませ、苞葉を押し広げる様子は、前途ある若者にも例えられるように、希望で胸を膨らませ、花咲かせようとする君たちの姿と重なるのである。

3年生の皆さん、卒業おめでとう。君たちは、思春期という多感な時期に「まだ子供」、時には「もう子供じゃない」と、矛盾の中で中学校生活を過ごしてきました。しかし義務教育を終え自分の意志で進路を決定する今、君たちはもう、大人の世界に足を踏み入れたのです。これからは、責任に裏打ちされた行動が求められます。大人としての自覚を持ってください。これから君たちは、社会の厳しさに身をさらすことになります。大人の強さを身につけてください。今、花咲かせようとする自分には、凍てつくような寒さから花弁を守ってきた固くて強い苞葉という保護者がいたのです。感謝の心を忘れないでください。

若さと希望に満ちた若者よ 顔を上げ
その潤んだ瞳に映る未来を しっかりと見据えるのだ
凜と姿勢を正し いかなる困難にも胸を張り
義の人生を歩み出せ 感謝と決意を胸に携え
そこに嘘や偽りのない足跡を残すのである

飛梅



保護者の皆様へ ご卒業おめでとうございます

本校校長のご家庭は、大きくなられたご令嬢と未だにハグができる円満なご家庭だそうです。一方、我が家で我が子と接していると…、いや、接することを拒否されると「小さい頃はかわいかったのに…」と毎日のようにため息が出ます。子育ては難しいものですね。

子どもたちは社会人や大学生になりましたが、
私は未だに子育て迷走中です…



以前新聞にこんな歌が載っていました。

「うるせえなあ 中学語で意味は多分『承知してます しばしお待ちを』」

思春期真っただ中の中学生の息子を、どっしりと構え余裕をもって子育てする親の歌だそうです。この歌のようにどっしりと構えておられた保護者の方は、たぶん少ないはず…。思春期という難しい時期を過ごした子供たち。自我や自立心も芽生え始め、反抗期も相まって、皆様もお子様とのやり取りにご苦労なされたのではないのでしょうか？ そのご苦労の分、義務教育を終え自分の将来を選択し大人の社会に足を踏み出そうとしているお子様の卒業式は、保護者の皆様にとって感慨深いものだったのではないのでしょうか。

中学校を卒業したお子様が、素晴らしい人生を歩んでいくことをお祈りするとともに、本校教育活動に多大なるご支援をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。また中学校とはご縁がなくなっても、地域にお住いのお一人として、温かく狭間中学校を見守ってもらえると幸いです。

この度は誠に、ご卒業おめでとうございます。